

大正二年四月五日發行

# 婦人と子ども

第十三卷  
第四號

フレーベル會

# 第十三卷第四號目次

病的の虚言

富士川 游

獨逸に於ける幼稚園改良問題

上野陽一

小兒の傳染病(二)

石塚保吉

フレーベル傳雜感

倉橋惣三

雜錄

研究心に富める關西保育界——盲兒幼稚園

會告

## 附錄

美學講話(第三回)

菅原教造

### 本誌定價

一冊 郵稅共金拾壹錢  
拾二冊同金壹圓貳拾錢  
六冊前金郵稅共六拾錢  
購讀申込 郵券代用一割増

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に御送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

### 本會宛御用務

本會宛諸般の御用務は左の如く願ひます

(庶務上保姆紹介に關する件を含む)の御手紙は  
東京市小石川區久堅町七十四番地フレーベル會事務所宛  
會計事務は東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、  
雨森銅宛  
本誌編輯の御用務(寄稿、廣告等)は東京府下千駄  
谷八七八倉橋惣三宛

大正二年四月五日印刷  
大正二年四月五日發行

編輯兼發行者 東京府豐多摩郡千駄谷町大字千駄谷八七八倉橋惣三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 登

印刷所 東京市本所區番場町四番地 凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 東京市小石川區久堅町七十四番地 フレーベル會

# 婦人と子ども

第十三卷第四號

## 病的の虚言

ドクトル 富士川 游

虚言といふのは、自分が善く知つて居るところに反して、不正の陳述をするので、その形態には種々の差別がある。小供が虚言を吐くといふことは、殆ど常習と見ても差支ないほどであるが、その内には、想像に基づいて、虚言を吐くものもあつて、この場合には、事實有り得べからざることの有るかの如くに言ふ。固より人を欺くといふの計畫ではなく、想像の亢進したゝめに、事實無いことを有つたやうに思ふて、虚言を吐くのである。それから誇大に言ふこともある。小供が何かを見付け出してそれを面白く、人に話す場合に、その

事實を誇大に言ふ。即ちホラを吹く。これには虚飾と自負とが伴なふので、小供に自家感覺が生じてそれが一定の度まで亢進してから、この類の虚言を吐くやうになる。懲罰を恐れて、虚言をいふ場合もある。人から何事かを追究せられて一時逃れに虚言を吐くといふやうな場合もある。斯の如く、虚言の形態は、種々で、これをなすの動機も一樣では無いが、しかし、その虚言は、何れにしても、道德の缺陷に基づくもので、精神の状態は健康である。それで、この種の虚言をば、犯罪的虚言と名づける。しかるに、この犯罪的虚言の外

に、病理的虚言と名づくべきものがある。これは精神の異常に基づくものであるから、尋常の虚言から、區別せねばならぬ。

病理的虚言、即ち精神の狀態が尋常でないために、虚言を吐くのは、大略左の原因に歸する。

一。事物を觀察することが常習的に、不十分なること。

二。追想の錯誤

三。想像力の異常に亢進せるがために、覺官的印象及び經驗をば、客觀的に再現するの能力が、侵されること。

右の原因は、精神作用の異常に基づくこと勿論で、デルブリュックはこれに想像性虚言の稱呼を附して居る。多數の場合にありては、この病理的虚言を吐くものも、尙ほその陳述の事實にあらざりしか否かといふことを批評するの能力は、持て居るのである。又、右の病的素因を有するものが虚言を吐く場合にありて、自家暗示が加勢して、何

等かの假想を起すと、これを直ちに事實と認めて記憶の内容に入れて、それを再現するからそれが虚言になるといふやうな場合もある。此の如く、自家暗示が加勢すると、病理的虚言は牢固として授くべからずといふ具合に確定するやうにあるものである。

病理的虚言の場合には、又精神の機械的作用が種々の方向に、侵されて居る。感受したる印象を正しく再現することが出来ぬことは殊に多い。夢と、小説と、實際の生活とから受けたる印象とを、十分に區別することが出来ず、それを、彼此混同して事實と非事實とを分けることが出来ぬので、隨て言ふことが虚誕になるのである。それに、自己を中心とする感覺が亢進し、又病理的虚言者に接する人々が、その虚言を信じて傾聴するといふことになる。暗示的に虚言を吐くことが強くなる。場合によりて事實でないこと、事實であることを、自分で知りながら、これを混同して、虚

言を吐くといふやうにもなるのである。

精神の健康なる人でも、記憶が不故意に性質を變化することがあつて、それがために虚言を吐くといふ場合もある。この種類の虚言は、近頃、陳述の心理の研究が進歩したので、明になつたのであるが、すべての人は、一定の事件に遭遇した後一定の時日を経ると、それに就ての記憶は次第に不正となり、又は消散するものである。それで一個の事件を度々報告するといふ場合に方りて、その陳述が、漸次に變化するといふことは間々有ることであるが、これは勿論病理的虚言では無い。此の如き、病理的虚言を吐くものは、精神の異常、又は異常と健康との境界にあるもので、ヒステ

リー、癲癇、精神病的低格者、精神薄弱等に多くこれを見る。生後に精神薄弱となつたものにも、これを見ることが多くある。

病理的虚言の本性は、此の如きものであるから、右のやうなものを證人として、陳述の正偽を判するの資料に供するといふことは危険である。裁判所で、證人としての陳述を聴くには、十分この點に注意せねばならぬのである。

精神の異常に本づける虚言者を處置するは、精神の尋常なるものと同様に、小供の時代から、教育に注意して、殊に觀察を明確にすること、記憶を再現することを明確にすること、陳述を正しくすること等に、重きを置いて、訓育するを肝要とする。

## 獨逸に於ける幼稚園改良問題

幼稚園の始めて設けられた本國の獨逸に於て、

近頃如何なる改良問題が論ぜられて居るかを御紹

介したいと思ふ。固より我が邦の幼稚園と獨逸のとは、その性質が大に違ふとは申しながら、彼地に於ける改良意見も亦、他山の石として參考にもなり、興味も尠からぬことであらうと思はれる。こゝに紹介するのは、ミュンヘンの私講師をして居られるアロイス・フイツシャーといふ人の意見で、「實驗心理學及び實驗教育學雜誌」の本年一月號に載つて居たものである。

## 一 教育行政上の問題

幼稚園に關する教育行政上の問題とは、畢竟幼稚園をおくか、おかぬかの議論である。一派の考では幼稚園は已むを得ぬ產物に過ぎない、經濟上の事情や、それに原因する家庭生活の破壊などのために、多數の子供は當然の安息所たる家庭に在つて、日々兩親の感化を受け、家庭の溫みに浴することが出来なくなつた、子供に教育を施すことは當兩親の役目であるのに、經濟上や慣習上の事情のために、それが出来ないといふことであるな

らば、社會は又當然の義務として、兩親に代るべきものを設けなければならぬ。幼稚園はつまり家庭教育の代りとして作つたものである。故にそれが改良を計り、延いて間接にその普及を促すのは少しも理由のない有害なことである。須らく幼稚園の如きものに對しては十分の制限を加へなければならぬ、でないと、現に自ら子供の世話をしつゝある親達までも、子供を幼稚園にあてがふやうになる虞れがある。つまり幼稚園は公教育制度の一成分と見做すべきものではない、隨つて慈善的の性質を無くするのは悪いとかういふのである。

之に反對するものゝ考へによると、經濟上及び社會上の事情のために、幼稚園が必要になつて來たので、今更幼稚園に制限を加へた所で、それ等の事情を除くことは出来ない。幼稚園を排斥したとしても、將に消え去らんとしつゝある家族觀念を恢復することは出来ない。寧ろ兩親が毎日外に出て働かねばならぬやうな家族にとつては、實に必

要なものである。そのみならず、子供を養育するにつけて、物質上のことには困らないけれども、精神上道徳上の手段に缺けて居る人、又大都市などに見る如く、教訓、模範等を示すには事缺がないけれども、子供を遊ばせる場所、設備、友達などの乏しいために困つて居る人、これ等の人々にとつては、誠に必要なものである。次ぎに、子供は成るべく早くから幼稚園のやうな所に入れて團體生活をさせなければならぬ、これは決して父母が教育上の責任を免れるためにいふのではない。小さい時から社會的の生活に慣れさせ、一致協力の思想を養ふためであつて、特に「一人子」のためには、是非其幼稚園の如き所に於て、同年輩の友達と遊ばせることが必要である。四歳から七歳までの子供は同年輩の子供と遊ぶ需要を感じるのみでなく、當然その權利を有つて居るものである。して見ればもつと幼稚園を發達させて、誰でも子供をこゝに托すことの出来るやうにするのが至當で

はあるまいか、それには幼稚園は慈善的設備であるといふ考をすて、之を學校系統の一部に組入れるのが良い。又あまりに子供を大切に過ぎる風潮に對しても、子供を幼稚園に出すことは、極佳い對應療法である。あまり可愛がり過ぎて世間に出さずにおくと、依頼心が克つて獨立心が發達しないやうになる、それにはどうしても、私設でない公設の幼稚園が必要であるといふのである。

以上の爭論は、多少の變更を加へれば、日本に於ても、同じことがいへるのであつて、獨逸の學校系統の沿革に於ても、誠に古い問題であります、今日に至るまで未だに解決を見ない新しい問題であります。

## 二 組織上の問題

これは各幼稚園に於て共同的變化を施すか、それとも、組を分けるのが良いか、幼稚園と尋常一學年との連絡は如何といふ問題であります。最低年齢如何の問題もこれに屬して居る、組を分ける

ならば同年齡のものを以て組を組織すべきか、又相互教育のために、一組の中に異年齡のものを混ぜた方がいゝかといふ問題もある。男女を分けてはいけないといふことは、經驗の結果明らかなことである。小學校との連絡は特に慎重に研究を要することゝ考へられる。

幼稚園の方では小學校の豫備をする考へはなくとも、實際に於て豫備となることは免れません。

二三年も幼稚園に通うた子供と、さうでない子供とは、假令同じ位な階級に屬して居るものでも、その習慣に於て、知識に於て、技能に於て、又仕事を好み、被教化性に富んで居る點に於て、餘程違ひがある。大都市の子供で幼稚園教育を受けたものになると、更に直觀が豊かだといふ特色を持つて居る。随つて大都市に於ける小學校初學年の教材は餘程違つて來るであらう。そこで兒童數の多い都市に於ては、小學校初學年を二種に分けて、幼稚園出身のものと、さうでないものとを區別す

る可否といふことも問題になつて來る。

併し以上の諸問題は今日まだ決定して居らぬ。

大都市に於ける幼稚園出身兒の實數如何について信すべき統計が無いからである。今後は各兒童の在園期間及び主なる作用について記録する事にしたいと思ふ。又小學校の男教師は幼稚園を正當に評價して居ない。婦人だがん／＼小學校にはいつて來て、男子の職業を奪ふ手始め位にしか思つて居らぬ。とても幼稚園が小學校の豫備をするといふやうなことはない。つまりそれほど眞面目視されて居ないのである。大抵の教師は幼稚園の教育を受けたからとて子供の被教化性は少しも影響を受けないといつて居る、又却つて悪い影響を受けるといふものもある。何れにしても、この組織上の問題を決定するには、公平なる立場から比較研究して材料を集めなければならぬ。小學校初學年の敎則案や目的などを幼稚園の上に築いて行くには、どうしても幼稚園を義務的のものにしなけ



れば出来ないことである。且又凡べての幼稚園を

同じ組織で行はなければならぬことになる。

所が幼稚園保育のお蔭で良い習慣もつき、仕事も

好きになつて居たものが、小學校にはいると、少

しも豫備教育を受けて居ないものと一緒にされ、

その結果、少しも進歩をしないのみでなく、知識や

技能が著しく退歩して却つて豫備教育を受けない

ものに負けるといふやうな事實が尠からずある。

今この事實を捉へて、その罪を幼稚園に歸し、一

概に價値のない有害のものだといふて仕まふのは

誤りである。幼稚園に長く居れば、仕事の方法に

も慣れ、教師との親しみも出來て、すつかりその

境遇に順應して仕まつて居る。その兒が幼稚園を

去つて小學校に入るに當つて、小學校の方では、

在園中の子供の境遇を丸で無視してしまふ、尤も

入學兒童の大部分は、幼稚園を経ないものである

からして、無理はないとはいふものゝ、それでは

折角幼稚園で始めた仕事も急に中絶されることに

なり、教師との關係も丸で調子が違ひ、子供に取

つては途方にくれた感じがすることであらう。要

するに兩者の間に連絡がなく、新しい境遇に順應

することが出来ないために、從來の知識は無くな

い、新しい知識は増さず、さてこそ他の子供にも

負けるといふやうなことになるのである。これは

決して悲觀に過ぎた言ひ草ではない、小學校には

いつてから、先生が變つたけれども成績が悪くな

るのではないか、それと根本に於ては少しも違ひ

はない。たゞ教師が違つただけでさへ、さういふ

影響があるものを、幼稚園から小學校といふ丸で

空氣の違ふ世界にはいつて、何かの影響がなくて

すむ筈がないのである。

### 三 教育方法上の問題

これは幼稚園改良問題の中で一番困難なもので

ある。遊戲及び自由作業といふことゝ、組別けの要

求及び次第に學校式の課業に移らしむることを調

和すること、又自發活動と外部からの興奮とを調

和するとは比較的容易いことで、それには精神物理的發達の程度の同じものを際めて組を作ればよいのである。併し上下の階級をつけて、嚴に組を分けるのは、學校式の組織を眞似たもので、幼稚園を學校視する危険がある。保育の方法については、從來いろ／＼爭論されたけれども、直觀敎授を以て基礎としなければならぬことは確められて居る。又どうして直觀されるか、その直觀を明らかにし、一般概念を作り、之を印象せしめるためには、如何なる發表方法を取らねばならぬかについても、少くとも原理に於ては決定して居る。又大都市の幼稚園は特に子供を天然と親ましめ、簡單な手工を覚えさせ、成るべく田舎の子供と比べて、足りないと思ふ點を補うてやるやうにせねばならぬ。この點は近來學校を以て勤勞學校となさんとしてゝある運動の影響と見ることも出来る。かくの如く獨逸の幼稚園制度は、歴史上から見、又事實から見て、フレーベルと深い關係を有つて

居るけれども、幼稚園改良の中心問題は何かといへば畢竟「フレーベルか非フレーベルか」といふこである。而かもこれは教育の任務如何といふ點から見て、この疑問が起つて來るのである。即ち男兒などにとつては、幼稚園教育は一種の屈從壓迫である、かしこまつた座り方をして、眞面目な歌を歌はせられることは、子供にとつては自分の尊嚴を傷けるやうな窮屈さを感じるに相違ない。その結果、謂はゆるフレーベル式なるものに對して忌み嫌ふやうになつたのである。加ふるにそれが情操の陶冶、意志鍛鍊の方法として價值があるかどうか頗る疑はしい。謂はゆる徳の養成なるものも、畢竟偽善に陥らしめる憂ひはないかといふ風に案じられて居る。

フレーベル式教育がかくの如く一般の不信用を來たしたのは、果してフレーベル自身の考の誤であるか、若くは之を複述したもの（主として女子）の誤りであるか、今それを論じて居る違はない。

又子供の教育をもつと自由な、束縛のない、活潑なものに組織しやうとする運動についても、細論する違はない。オットー・グーリット、モンテッソー、フエルニーの諸氏は、幼稚園改良についての意見やら實例やらを澤山提供して居る。要するに、現今幼稚園改良の根本問題は「フレーベルか非フ

レーベルか」に在るとを忘れてはならぬ。氏は以上の諸問題を解決するために、盛に私立幼稚園を興して研究し、當局者の優柔なすなきを刺戟してやらなければならぬ。されば幼稚園もその面目を一新して延いて家庭教育のためにも光明を與へるであらうといつて居る。

## 小兒の傳染病（その二）

### △麻疹

醫學士 石 塚 保 吉

麻疹は子供に限つた病氣ではなく、どんな時期

あります。明治天皇には一度もお罹りにならなかつたと申すことであります。

でも、年寄でも、誰れでも罹る筈のものであります。

此の病氣の流行する時期は定りがありません。

す。然るになぜ子供に多いかと云ふと、大抵子供の時に一度罹つてしまつて、免疫を得て、もう大人になつて、からは再び罹ることがないからさう思はれるのであります。而して大抵の人は一度は

殊に都會などは一年中あります。併し特に多い時期は寒い時の方です。これは寒い季節は氣管支カタル感冒等が多くあつて、傳染に都合がよいからであります。

罹るべき病氣で、非常に多く擴がつて居る病氣で

麻疹は一度罹れば、二度と罹ることはないとし

てあります。併し稀には二度も三度も罹つたといふことがあるが、そういう時は、他の類似の病氣、例へば風疹、フヒラトウデューク氏病等のやうに、麻疹に甚だよく似て、それより軽いものがある、それ等と間違へたのであらうと思はれるのであります。とにかく麻疹は割合に完全に免疫性を得られるらしいのであります。これに罹る年齢は矢張りインフルエンザと同じく、生後一、二年から五、六年の間が最も多いのであります。

うつりかたは觸接の傳染が最も多く、空氣傳染もあります、それは極近い處に相對してゐるものでなければそうは移りません。それから患者の鼻汁、涙、唾液等の中に病毒が潜んで居りますから、そういうものに觸れると移ります。要するに傍に近寄らなければ移らないのであります。この病氣の初めは一寸わかり難い場合がありますが、多くの場合は、初めに熱が出て、それと同時に眼や其の他粘膜が胃されて、涙が出たり、眼脂が出

たり、鼻が塞り、鼻汁が出、咳嗽が出ます。それを前驅期と云ひます。その時分に氣をつけて咽喉を觀ると、上腭に赤いボツ／＼が出来て居る、これを内疹と云ふ、それは麻疹特有のものではないが、出来ることが多いのであります。麻疹に特有のものは、頬の中にコブリツク氏斑と云ふものが現れます。頬の内面に白い芥子粒よりも小さい點が出来て、圍りが赤くなります。大抵五六箇から十數箇出来ます。これが見つかれば麻疹と決めて差支へないのであります。そんな風で一旦高く昇つた熱が少しく降り、結膜炎、鼻カタル及び鼻汁が出るのがやさしくなります。それで工合がよいと思つて居ると、再び熱が出て、結膜炎も、鼻カタルも再び強くなつて、發疹が出て來ます、發疹は顔から始まります。殊に口の圍りが多く、それから上にも下にも擴がつてゆき、大概始まつてから二日位の間に全身に擴がり、その間は非常に熱が高いのであります。それから大抵三日目か、四

日目に、始めに出た部分から色が消えます即ち赤いのが褪めて、だん／＼黒くなり、痕には黒い形を残します。その形が消える迄には一週間乃至二週間かゝります。それと同時に熱もだん／＼降り、五六日で平熱になります。その後皮が剥けます。即ち落屑期に入ります。細かく、粉糠のなやう形になつて剥げます。すっかり剥げる迄に一週間かゝつて、そこが病氣が済みます。中に形の變つたのや、診断の難かしいのは特別として、通例の場合には先づ斯ういふ風に來ます。

昔から麻疹は命定めとか云つて、恐ろしがつたものですが、我々から觀ればそれ程恐ろしいものではないので、病氣の間に不養生さへしなければうまく済んでしまふのであります。恐ろしいのは合併症であります。氣管支肺炎、中耳炎等で、若し、熱が降る時期に降らないとか、或は更らに熱が昇つたりする時は、合併症が來たものと思つて注意しなければなりません。

麻疹の養生法は極めて簡單なものであります。

寒い風に遇はない様にして、床の中に居て、柔かいものを食べて経過を待つのであります。特別に早くすることも出来なければ、藥を飲んだからとて時期を早く過させることも出来ない、熱を下げやうと試むる必要もないのであります。たゞ非常によく人に移りますから、大勢子供でもあつたら別にして置くことが必要です。

#### △猩紅熱

猩紅熱は麻疹のやうに萬人が皆罹る病氣ではない。併し數は少なく、人に由つては先天的に免疫性をもつて居りますから流行する時でも、誰れもが罹るといふものではありません。麻疹も、猩紅熱もどちらも原因は未だわかつて居りません。やはり二三才から五六才の間に罹ることが多いのであります。發熱の當時から麻疹よりも遙かに猛烈であります。子供は非常に機嫌が悪く、急に高い熱、嘔吐を催し、頭痛が起る。身體は倦怠く、咽

喉が腫れて痛く、咳きこんだりします。幼児は極  
摺を起すことがあります。嘔氣と、咽喉の痛みと  
は此の病氣の特徴と云つてよい位、必ず咽喉が大  
きく腫れます。此の容體は一日位しか續きません。  
即ち斯ういふ兆候があらはれてから十時間から、  
廿四時間經つと發疹が現れます。麻疹と違ひ、  
頸から胸それから背と云ふ順序で三四日の間に全  
身に擴がります。顔には出ないで、たゞ少し頬が  
赤くなる位です。殊に變つて居ることは、口の圍  
りがその反對に白くなり、非常にその對照が明ら  
かになります。發疹が出る間は熱が高く、それか  
ら退きます。初めは卅九度から四十度以上に達し  
三四日頃から發疹が退けると、それに従つて退き  
ます。發疹は麻疹に比べると非常に小さく、大抵  
芥子粒か胡麻粒位で、それが密生し、ひどくなる  
と境目が分らない程全身が眞赤になつて、その間  
に健康の皮膚を認めることが出来ません。麻疹の  
は粒が大きく豌豆位、或はもつと大きくなつた

りします。猩紅熱の中には只の發疹ばかりでなく、  
それが水泡に變るのがあります。これを粟粒性猩  
紅熱と云ひます。咽喉はいつでも非常に大きく腫  
れます。これを猩紅熱性アンギーナと云ふ。又舌  
にも變化が来る、高い熱の時分に、舌に白いも  
のが附きます。それは一日か二日のうちにとれて  
其の下から眞赤な面が現はれ、覆盆子のやうに見  
えるから覆盆子舌と云ひます。發疹が體に形を残  
して居る間は二週間で、それから麻疹のやうに全  
身の皮が剝けます。これは麻疹と違ひ大きく剝け  
ます。顔のやうな皮の薄い處は細かく剝けるが、  
手足のやうな皮の厚い處はその儘剝ける、劇しい  
時は手袋や足袋を脱いだやうに、その形をして剝  
けてしまふ、こゝういふことは外の病氣にはないの  
で、そればかりでも猩紅熱と定めてよいのであり  
ます。

傳染のしかたは矢張り觸接傳染で、これは玩具  
や、ハンカチーフなどから移ることがあります。

唾液、鼻汁の中にも病源が含まれて居ます。移るのは前驅期に多く移り、發疹期、落屑期になると移り方は少なくなります。此の時には合併症として中耳炎腎臓病は殆んど定まつて來ます。此の病氣はかなり恐ろしいもので、生命をとられるやうな場合も少なくないのであります。

#### △ジフテリア

麻疹百日咳の様にはありませんが子供に澤山あるのはジフテリアであります。これも何時といふことはないが、冬や春は多いのであります。これは多くの人々が御承知の通り恐ろしい病氣で急に來るもので、あまり前兆として氣がつかないうちにもう病氣になつてしまふのである。機嫌が悪いか食物の進まぬとか云つて居るうちに熱が卅九度位になつて、非常に早く病氣が進んで來ます。此の病氣の特徴は咽喉が急にはれて物を飲み込むとき痛く扁桃腺、或は咽頭の部分に白い義膜が附きます。場所によつて違ふが、鼻に出來ると

膿のやうな臭い鼻汁が澤山に出る。咽頭につく時は扁桃腺が腫れて、その上に白い膜が出來る。それが喉頭に下つてくるとジフテリア特有の咳が出る。犬が吠えるに似た、引かゝつたやうな、非常に高く響く咳であります。熱が出て、その咳が出たら第一に疑を置いて差支いへないのであります。

此の病氣は非常に早く擴がるから、早く手當をしないと生命に關はります。一晚のうちに咽喉が塞つて窒息する様ことがあります。疑はしいと思つたら直に醫師の診察を受けなければなりません。鼻や、咽頭につくのは危険が少いが、喉頭に出來た場合は窒息がくるから恐ろしいのであります。

療法としては血清療法が發明されてから非常に確實に効力を現はしますから時期さへ早ければ癒すことが出來ます。斯ういふ治療法は完全して居るが手後れになれば利きません。血清を注射して

も直には利かないので、全身を廻つて効力を現はす迄には十二時間かゝる手後れになると血清を注射してもそれが利く迄に病勢が進むから、その間に咽喉を塞いでしまふことがあります。故に血清があるからと云つて安心して居ると間にあはないで、血清は注射したが、危険が迫るといふことがある。若しそうなると氣管切開をして助けるのであります。夫れにて咽喉を切つて管を入れて呼吸させるのであります。か嫌がる人があるが、生命には代へられないから、そういう場合には直に此の療法をとらなければならなりません。

此の氣病で最も恐ろしいことはジフテリア後の心臓麻痺といふことで、ぐづくして居る間にジフテリアの病毒が心臓に入つて、心臓内膜炎を起します。此の病氣は決して癒らない、今迄に治癒した例がないのであります。そういうことがありますから、何に致せ一時も早く治療を受ける必要があります。

傳染の仕方は觸接傳染でありますから傍へ寄らないやうにして、唾液、鼻汁を嚴重に消毒しないと傳染の危険があります。療法は早く血清療法を受けるのがよいのであります。なほジフテリアの外にジフテリアと同じやうに咽喉に白いものがつく病氣があります。腺窩性アンギーナと云ふ病氣などはジフテリアに似て居りますが、さういふ區別をして居る餘裕はないから、疑はしい時は直に血清療法を受けるがよいのであります。病名を定めて居るうちに、眞のジフテリアになつてしまふことがあります。醫師は必らず勤めますから患者でも早く決斷してその手當をする方がよいのであります。此病氣を八大傳染病の一になつて居りますから、入院して治療を受けべきものであります

春の野に心ある人の素顔かな

圖 女



## フレーベル傳雜感

### 一

今月はフレーベル先生誕生の月に當る。楣間の肖像に對して、そこはかとなく、いろ／＼のことを思ふ。

世に興味の最も深きものは、恐らくは偉人の生涯である。素より或る意味に於てすれば、必ずしも世に所謂偉人に限らず。すべての人の生涯が皆意味の淺からぬものであるけれども、その思想、その事業に於て既に吾人の興味を促すもの多大なる偉人の生涯に於ては、その偉大なる思想と事業との醸造場として、そこに汲めども／＼盡き難き興味がある。蓋し、すべてこの偉人の事業と思想とは、その生涯と離し考ふべからざる關係を有するものであつて、たゞ抽象したる一個の思想、抜き書きしたる一聯の事業記録として觀察しては、

### 倉 橋 惣 三

到底其の眞想を捕捉することは出来ない。思想と事業とは假令ば生涯の地布の上に刺繡せられたる模様にも似たものである。その錦糸絹絲の色彩も地布あつての花模様である。

しかも世には、その生涯と思想事業との錯綜の密度が比較的粗なる場合も無いではない。前篇の其の傳記と後篇の其の思想とを、別々に取り離し讀むも、その各々を理解するに餘り難からぬものもある。たゞフレーベルに於ては、兩者の錯綜最も緻密なるものがある。是に於て、先づ彼の事業を聞き、彼の思想を學び、後その生涯を研究するに及んで、其の事業と思想とに對する理解の初めて明瞭に且つ切實に徹底するを覺える。此の意味に於てフレーベル傳は、其の師ベスタロツチの傳と相並んで、教育紀傳中、恐らく最も多趣多味な

るもの、雙壁である。

## 二

フレーベルがツールンギヤの森林地方の生れなことが、既に意味深いことである。彼の思想は岩石巍峨たる高山地帯の態を帶ぶるものではない。また天空快濶たいく／＼明るく打ち開けたる海岸地方の香を帶ぶるものでもない。實に森林的である。大いなる森林地方のすべての風物と等しく、深玄にして神秘的なる趣を具へ、且つ清爽の中に多少の濕度を含んで居るのが彼の世界觀人生觀である。従つてその教育說も亦、實際的といふよりも哲學的に、科學的といふよりも詩的である。此兩面はフレーベルの教育說を研究するもの、觀過すべからざる點である。

次にフレーベルの『發達』に關する理解と興趣とも亦、森林に生れて森林に成長した彼の幼時の賜である。フレーベルの教育上の新學說も新貢獻も、一つにその根底が、『發達』の現象に對する彼の

領會に基づくことは、苟くも幼稚園教育の本質に就て多少の知識を有するもの、皆熟知せる處である。若しフレーベルは如何なる人であつたかといふ間に對して、最も直截に最適切なる答を與へんとすれば、フレーベルは『發達』の眞意義に最強く憧憬した人であると言つてもよい位である。而してフレーベルの此の『發達』に對する理解が植物發達より導かれたことも人の知る處である。——此の天才が植物の萌芽を見ること稀なる都會兒童でなかつたことは、人類の非常なる幸であつた。

## 三

フレーベルが生後九ヶ月にして母に逝かれ、四歳までいぢらしい片親兒であつたこと、四歳の時よそから來られた第二の母との親愛が長く續かないで、こんな幼い年頃から淋しい孤獨の生活に慣れざるを得なかつたことは、今此の肖像に對してだも、追憶するに氣の毒なことである。しかも此の事實が亦フレーベルの思想の上に二つの影響

を及びして居る。

その一つは、幼兒期の教育の最貴重なること、殊に幼きものに幸なる喜びの侶を與へなければならぬといふことを、己が幼時にひきくらべて殊に切實に泌々とフレーベルに感じさせたことである此の點からは、彼の自身の不幸が後の幼兒の幸福になつたとも言へよう。

その二つは、幼時からの孤獨的習慣が、其の一生の性となつて、冥想沈思の癖が聊か度を過ぎるまでになつたことがある。フレーベルの教育説がただ哲學的なることは前にも述べたが、彼の學說の中の、惜むべき論理詰めの缺點と及び象徴の弊とは、彼れ自らがその自傳の中に告白せる通り、幼時の孤獨癖が大に與つて影響して居るのである。牧師として人の子を教ふるに多忙なりし彼の父は、何故もつとその家庭に於て我が子の侶となつて呉れなかつたか。若しまた變更し得べき運命ならば、彼の生母は何故もつく長く健康で居て呉れなかつ

たか。將たまた、彼の第二の母は何故その初めの慈愛を維持して呉れなかつたか。要するに幼きフレーベルが、その子供さを、自らもつと充分に味ひ楽しみ得なかつたことは、彼の爲には勿論、後世の爲に少からぬ損害であつたのである。

フレーベルは子供を愛し、またよく之れを理解して居た。少くも兒童研究の必要と趣味との普及が、まだ今日の如くでなかつた一世紀前に於て、稀有なる兒童の友であつたのである。しかも、子供を子供として教育せよといふ彼れの天才的唱道に拘はらず、時に自ら非兒童的なる矛盾に陥ることのあつた彼の弊は、疾くより淋しき孤兒となつたフレーベルの冥想癖によるものであつた。總ての事に善き意味を發見せんことを希ふ吾々も亦、此の一事にはたい／＼遺憾を禁じ難いのである。しかも彼の思想と生涯との錯綜を考究せんとするものには、輕視することの出来ない一資料である。

#### 四

十五歳の時 始めて従事した職業が森林内の林業事務であつたこと、引きついで種々に轉じた職業が多く戸外的業務であつたことは、フレーベルの自然詩人的特色を深くするに大關係のあつたことである。

フレーベルは、人間の趣味傾向の最も強く教養せらるべき少年期青年期を通じて、將來教育者となるように教えられたことは一度もなかつたのである。彼の學んだことは植物學であつた。礦物學であつた。土地測量の術であつた。その相手とする處は樹木であつた。鑽石であつた。而して土地であつた。彼が教育者になるであらうといふことは、運命の外は彼自らさへも思ひもせぬ處であつたのである。しかも運命は誰れよりも最も賢き最も遠き慮をフレーベルの爲に藏して居たのである。フレーベルの教育説が、コメニウス以來の教育上の自然派の成熟大成せるものであつて、之れが歐洲教育思潮の當然の流域なりしことは、教育史

を読むもの、皆知る處である。即ち、フレーベルの教育説の根底、輪劃兩つながらに著しくあらはれて居る自然派的特色は、自然に倣へ、自然を學べ、而して自然を與へよといふ當時の教育思潮の感化の與つて力あることも勿論否むべくもないが、運命はフレーベルをして此の教育説を大成せしむる爲に、一見無益なりしが如き二十三年の準備を與へたのである。

フレーベルの目は自然を見ることに慣らされたのである。その手は自然を培養することを教へられたのである。幼稚園、幼稚園。實に幼稚園は此の目と此の手で開拓せられたのである。代數學で方程式を解く様に、人の運命の方程式で $x$ を自由に變じて其の $y$ を見ることが出来るならば、人はフレーベルの生涯の初めの二十三年間を $x$ として之れを色々に變じて見るがよい。 $y$ を幼稚園<sup>▲</sup>たらしむる爲に、之れ以上適當な $x$ があるのであらうか。幼兒は草の芽に喩ふべし、教育者は其の

培養者に喩ふべし。その教育の場所は之れを園と呼ぶべしといふガルテン(園)主義が、世界の教育者中恐らく最よく自然を理解し最深く自然を愛したフレーベルによつて初めて唱導せられたのは、實に一元一次方程式的事實であつたのである。

## 五

青年フレーベルは、その生涯の方向に就て甚だしく煩悶した。煩悶々々、迷ふに疲れた煩悶者の足は、建築師にでもなろうかといふあてどのないあてどを以て、フランクフルトへ到着したのである。

吾人はフレーベル傳を思ふて此の一節に至る毎に人の運命の危きが如くにして定かに、定かなるべきも豫め期し難きを感じざるを得ないのである。蓋し此の時を中心とした前後に於けるフレーベル傳の一節は、曲折多き彼れの生涯中、殊に甚だしく觀客の胸の鼓動をして高からしむる一をなすものである。

しかも茲には之を詳説する暇がない。兎に角くフレーベルは建築師とならずして教師となつたのである。而して迷へる者は茲に自己の立脚地を見出し得たのである。煩悶者は心の安住を得たのである。「魚は水を得、鳥は空氣を得」たのである。

而してフランクフルトに於けるフレーベルの生涯の此の一轉化の原因を、一つに當時フレーベルに教師たることを推奨したグルーナの忠告にのみ歸するは未だその眞想を得ないものである。

此の時二十三歳のフレーベルは、すべての眞摯なる青年の一度は經驗すべき内心の不安をもつて居た。即ちフレーベルの當時の煩悶は、たゞに定職の無いといふ、功利的煩悶ではなくて、如何なる事業が人の一生として眞に努力の價值あることであらうかといふ、内面的煩悶であつたのである。フレーベルの此の不安に對して、林業も土地測量も満足と與へ得なかつたのである。

フランクフルトへ着く前の旅中のことであつ

た。同行の友人の寫眞帖に、フレーベルは斯ういふ句を書きつけて居る

『君は人類にバンを與へよ。余は人類に彼等自身を與へんかな』

今や青年フレーベルの心は實業に其の眞満足を得ずして、精神的教化の事業に傾きつゝあるのである。フランクフルトへ着いた後、建築師となるべき就職口を求めて居る間にも屢々次のようなことを思つた。

『自分は建築業をして、果して人生に價値ある仕事が出来うか。自分の一生を人類の教化と向上の爲に使ふことが出来るだろうか』

之れだけの事實から見ても、當時のフレーベルの心中は大低察することが出来る。斯ういふ心を持つて居る魚には教育が水である筈である。斯ういふ心を持つて居る鳥には教育が其の空氣である筈である。フレーベルは自分の索むる處を自ら識

らなかつたのである。しかも自分の索むる處を自ら得たのである。グルナーはたい魚に水を與へ鳥に空氣を與へたに過ぎない。

フレーベルが斯くして突然(外見)教育事業に入つたことを人々は偶然の出來事だといふ。しかもフレーベルには常に生涯が事業である。二十三歳の夏の始めフランクフルトに初めて薔を結んだフレーベルの教育事業は、未知無名の植物として、ツーリンギヤの森の中に必要な成育を遂げて居たのである。

## 六

ベスタロッツチから受けたフレーベルの思想上の感化に就ては、特に今更言ふに及ばない。又いろいろの場所、いろいろの事情の下に教育者としての實習を重ねて行つた教師フレーベルの自修發達も更めて説くを要しない。グリースハイム。ケイルハウ。ブランケンブルグ。窮乏。不幸。誤解。迫害一々迫る要もあるまい。之等は皆前半生の間に緒

を作つた思想と事業との繩が段々に太くなりつゝ、色々に糾はれたに外ならぬのである。

たゞもう一つ、吾人に考察の興味を促すものはフレーベルの從軍である。

如何なる意味に考へても此の一年間は損害の一年間であつた。劍が血を求むる此の一年間が、幼兒の父となるべきフレーベルに何等積極的の効果を與へ得る筈はなかつたのである。しかしフレーベルの生涯は此の空虚空費の如き一節に於ても彼の事業の爲に多大の意味を有するものとなつたのである。即ちフレーベルは此の從軍中に、ランゲタールを得た。パウエルを得た。ミッテントルフも亦此の時に得たのである。之等の人々がフレーベルの教育事業に如何に重大なる好關係を有するかは人の皆知る處である。殊にミッテンドルフの如きに至つてはフレーベルの事業の半身と言つてもよい位である。フレーベルは戦争に出て勳章を得なかつたが、事業の伴侶を得た。普魯西亞軍に

屬したフレーベルはその生涯と事業との錯綜の運命に於ては偉大なる勝利者であつたのである。

## 七

併しながら、フレーベルの事業は只其の生涯によりてつくり上げられたのものでは勿論ない。フレーベルはその生涯を有する前に、フレーベルとして生れて居たのである。教育上の天才者としてフレーベルの偉大。および其の波瀾多き生涯殊に後半生の障碍多き苦闘を貫き通した強き自信の人としてのフレーベルの雄偉。之れこそ彼の事業の椎骨であつたのである。

今日に於てフレーベルを見れば、教育史上の大成功者である。しかも其の當時に於て彼を見たものは恐らく誰れも成功者を以て視なかつたのであろう。此の不成功の生涯をして、實は眞の成功の生涯であらしめたものは、一つにその天才と自信とである。見よ彼の肖像は其の眉宇の間に之れを證明して居るのである。

リーベンスタインの片山里に、村人から「馬鹿

爺さん」と嘲り呼ばれながら子供達と遊んで居た、天才と自信とを藏する此の「大愚」こそ、フレーベルが眞に幼児教育上の第一人たることを得た意味深き教訓なのである。而して之れは経験からは得られない。學問からは勿論得られない。心である。たい一つに心である。その生涯の總和を、衷心より幼児のために獻げることの出來た其の心である。

ツーリンギヤに生れたものは澤山ある。少年期青年期を林野の業務に過したものは澤山ある。自然に對して科學的理解及び詩的感興を養ひ得たものも澤山ある。——斯くの如くして、フレーベルと同じ生涯が必ずしもフレーベルを生むものではない。之れに反して、彼れの全生涯の經過をして全然別途ならしむるも、フレーベルは恐らく矢張りフレーベルであつたであらう。たゞ史上の事實としてのフレーベルの事業は、上述の如く周到に其の生涯から形づくられたのである。

### ○主客問答

客「今日は一日貴園を拜見いたし度いと思ひます。どうぞお許し下さい。」

主「よくおいで下さいました。どうぞ御ゆるり御覽下さいまし。」

客「どういふ順に拜見することが出來ませう。」

主「どうか御自由に、……幼児は只今みんな遊園に出て居ります。」

客「お廣いお庭で御座いますねえ。幼児の數が大層少いようで御座います……。」

主「はい、今日は上の組が二組とも散歩に出來して、こゝに遊んで居りますのは残りの半分で御座います。」

\* \* \*

客「今朝程から一度も保育室へお入れになりませんようですが、保育をなさる處は何時拜見出來ませうか。」

主「今日はこんなに天氣がよく御座いますから、一日外で遊ばせて置く積りで居ります。」

客「ハア、左様ですか。」

主「それに今日は幼児の數が少くなつて居りますから遊ぶのに一層都合がよろしう御座います。」

客「ナル程。天氣の時は毎日斯ういふ風にしておいでいますか。」

主「氣のい候、間は、なるべく左様し度いと思つて居ります。」

客「二三室内に入つて居りますのは、どう致したのでしょうか。」

主「外の遊びにあきて入つて居るので御座います。」



## 雜 錄

### 研究心に富める關西保育界

倉 橋 生

余が始めて關西保育界に接する機會を得たのは昨年五月京阪神三市聯合保育會總會が神戸に開かれた時であつた。其の時三市はもとより關西諸縣より會合せられた會員及會員外諸君の數が千に近き大數に及んで居ることを見て、余の目は先づ關西保育界の盛況に驚かされたのであつた。更にその會場に充溢せる熱心なる氣勢は、汽車の旅に疲れた余の精神にも最快き緊張を與へて、此の種の壇上として聊か程が過ぎたかと思はるゝ位の言ひ度い放題を述べたことであつた。之れが關西保育界に余の所思を聽いて貰つた初めてであつた。

ついで昨年九月上旬、大阪市西區保育會主催の講習會に於て一週間の保育講習を試みることになつた。余が大阪市保育界の多數の方々と親交の

幸を得たのは此の一週間の實に何よりの賜であつた。而して神戸の會に於て先づ其の盛況に驚かされた余は、更に進んで、當時關西保育界の裡に磅礴せる活潑なる研究心に驚嘆したのであつた。

今思ひ出せば、此の一週間は實に愉快なる多忙であつた。保姆諸君は總ての時間と總ての機會とを爭ひ利用して、保育改善のために、余が所有して居そうに見えたあらゆるものを、一つでも多くしぼり取らんとせられた。但し余が此の人方の要求に對して日々辛じてしぼり出し提供し得たものは、鹽辛き汗のしづくに過ぎなかつたから、結局諸君の得られたものは失望に過ぎなかつたこと、其時も今も思つて居る。

東京に歸つてから雁のたよりに聞く其の後の消息は更に／＼愉快なことが多くあつた。僅か一週間の、意あれども言葉足らぬ余の講義が、恰かも折からの秋扇と共に、淀の川波に投げすてられの運命には逢はなかつたといふことは、正直のところ

尠からぬ愉快を心に覺えたのであつた。西區の保姆諸君は余の講義筆記をもとゝして久しく其の討究會を續けられたといふことであつた。京都では講演の要目を印刷して特に朝尾氏が數回に亘つて其の紹介の勞をとつて下さつたといふことであつた。又神戸でも綿密な復習會を催されたといふことであつた。當時書信でもそれ等のことを知り、今また親しくそれ等のお話を聞いて、余は余のつまらない講演に對して、それ程眞面目な注意を拂つて下さつたことに就て、衷心の感謝を禁じ得ないのである。しかも眞に此の熱心を生んだものは何か。勿論余の講義ではない。關西保育界の裡に躍動せる活潑なる研究心そのものである。之れは言ふ迄もないことである。而して余の感謝の情は轉じて敬嘆の念とならざるを得ないのである。

今回大阪市東南北三區保育會の聯合主催によつて再度の保育講習を楠市視學を経て依頼せらるゝに及んで、此の敬嘆の念は重ねて加増せられざる

を得なかつた。殊に學年末の此の最多忙なる時期を以てして迄、新學年度よりの保育改善に資する所あらんとするといふ熱心なる趣旨に對しては、余は余自身の都合を何とかして繰合はすことを、光榮ある當然事と思つたのである。

東京を立つ時の春雨は、夜と共に晴れた。關西の山、關西の野、もの皆に若芽新らしく萌えいつる春の初めの新鮮なる光景は、爽かな朝の日光のもとに、すが／＼しき朝の空氣の中に、潑潑として展開せられて居た。千代女句あり『春雨や美しうなるものばかり』敢て此の名句を借りて關西保育界の前途を祝ふ。

\* \* \*

大阪に來て新らしく聞いた嬉しい話は尠くない神戸幼稚園の望月園長を中心として、モンテツソリーの熱心なる研究及其の新工夫の如き、實にめざましいものである。また西區保育會が來月を俟つて京都大學の野上君に依頼し『兒童の心理的發

達を重んずる教育』と題し十回に亘る講習會を催すといふ話と、神戸で同じく京都大學の檜崎文學士に依嘱して、長期の研究を催すといふ話とは、

關西保育界の如何に益々研究心の豊かなるかを語るものであると共に、其の當地方保育全體の上に與へらるべき大いなる効果を思ふて、實によりこびに絶えないのである。そこで諸君は、言ふ迄もなく此の好機會を、出來得る限り充分に利用することを忘れないようにせられなければならない。

一生懸命兩講師の打出の大槌<sup>うちで</sup>から、一つでも多く貴き智識の寶を領けて貰ふようにしなければならぬ。引き出せば引き出すだけ、よい寶の澤山に出て來るのが此の打出の大槌である。諸君の方でくだらん遠慮や、根氣まけをするようなことがあつては決してならない。又兩講師をたいに今回のみならず、將來長く幼稚園教育に生擒つておくことも忘れてはならない。大切な我が帷幕の將となつて貰ふことを忘れてはならない。之れは關西

保育界の親友の一人として余の眞實なるよろこびとおすゝめとである。

終りに臨んで、今回東南北三區保育會役員諸君の御款待と、其他舊知諸君の變らざる御厚誼とを深謝致します。(筆を措て目を放てば、澱川の春水漾々として樓下を流る。三月二十四日大阪客舎にて)

## ○盲兒幼稚園

(『人性』第九卷第三號所載)

數個月前、伯林市ナウニン街に盲者幼稚園設立せられたり、これ歐洲最始のものにして、恐らくは全世界に於ける此種の設備の嚆矢たるべし。五官不全の兒童の學校教育は、普魯西に於ては、聾啞及び盲兒の教育に關する規定に據て取扱はるゝも、學齡前に於ける此等不幸のものに對しては未だ何人も著手せざる所なりき。保姆を雇ふことも家族がこれを世話する時間もなき貧窮の状態に於て成長する所の盲兒は、その精神的發達の甚しく

劣れるは勿論、その氣分及び性格も、放置と寂寞と無爲とに由て著しく障礙を被むるものにして、

往々學校に於て教育を進むるの基礎を缺くものなり。この盲者幼稚園の設立は恰もこの不良狀態を救ふものと謂ふべきなり。唱歌に連れて行ふ所の輪舞の如き、普通のものゝ爲す所の幾多のものは盲者幼稚園に於ても應用することを得れども、その他のものは小兒の特性に適合せるものならざるべからず。最初は往々全く痴鈍の小兒も、著しく迅速に發達し、精神も活潑になるを観る、故にこの新保護施設は彼等の爲には大なる恩恵たることを知るべきなり、是を以て、その一般に普及せられむことは大に希望する所なりとす。

## ○日本兒童學會春季總會

日本兒童學會にては五月四日（第一日曜日）午前八時より醫科大學法醫學教室（赤門内）に於て春季總會を開き、宿題たる不良少年問題及兒童食品問題の報告並に兒童學に關する諸氏の講演ある由。本會々員諸君には最有益なる講演會と思ひます。聽講隨意。

## 會 告

### ○本會總會

フーベル會十第八回總會は廣告の通り本月二十日（日曜）午前九時三十分より東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開催いたします。今回は前號に豫告の通り、會則の一二變更及び、幼稚園保姆養成の件等につき緊急なる御協議を願ひ度く特に會員諸君の多數御出席下されんことを切望いたします。又演説としては文學博士吉田熊次氏は『兒童に對する觀念の變遷』と題し、文部視學官横山榮次氏は『教育系統上幼稚園の保つべき地位』と題し、共に最も有益なる御講話がある筈であります。その他懇談に陣列に、つとめて有益と興味とを期し度く委員に於て準備中であります。會員外諸君も亦御來聽を希望いたします。尚ほ同日は午前午後に亘り開催の都合につき御來會の上御希望により辨當（十五錢）の御注文に應ずべき準備があります。

### ○保姆の紹介

東京市内幼稚園へ保姆希望の人数名と地方にて保姆を索むる幼稚園とあり。

右御希望により本會事務所宛委細封書（返信封封入）にて御申越有之候は、御交抄の御取次可致候。

ゴルドン女史著  
菅原教造譯述

# 美學講話

全十八講

『婦人と子ども』附録

第一講 入門

第二講 心像の話

第三講 感情の話

第四講 藝術の起原と職分

第五講 リズムの話

第六講 舞踊の話

第七講 音楽の話

第八講 色彩の話

第九講 線と形の話

第十講 圖案の話

第十一講 建築の話

第十二講 彫刻の話

第十三講 繪畫の話

第十四講 言語の話

第十五講 詩の話

第十六講 戲曲の話

第十七講 散文の話

第十八講 美と藝術

## 第四講 藝術の起源及び職分

### 目次

緒言——原始的活動と藝術の起源——戦争——獵狩及び他の産業——人を惹かんとする慾望——宗教的及び魔術的儀禮——自然に對する原始的態度——原始藝術に於ける暗示の力——リズムの効果——原始藝術の一般的職分——文明的活動と藝術の起源——藝術衝動——創作と鑑賞——美意識は無關心なり——美的價值は觀照的なり——美的判斷は客觀的且つ普遍的なり——文明藝術の職分——原始藝術と文明藝術との職分の差

### 緒言

本講に於ては、藝術的活動を誘致するに効果の有つた（やはり今も効果のある）個人的及社會的要求の主要なるものを舉げて述べて見たいと思ひます。

歴史を尋ねますと、人類文化のある所には、必ず藝術的職業もあつたと云ふ確かな證據があります。故に藝術製作の動機及原因は、必ずしも文華燦爛たる時代の特發では無く、これは全く人間の天性に基いて居るもので、人が生存し且周圍と對

抗しやうとする所には、必ず現はれて來るものと云はなければなりません。これから講を重ねて、各種の藝術の研究を進めて行くに就いては、先づその一つ一つの藝術の原始的形式に就て、お話を致さなければならぬのでありますが、今こゝでは各特殊の形式よりも、藝術全體として、其の起因、動機及効果を述べる事に致したいと思ひます。そして此の原始藝術に關する大體の説明を終つてから、之と比較して、文明藝術はどんな職分を

有するかと云ふ問題を解く爲めに、文明人の藝術創作の動機を心理的に見て、其藝術衝動とは何であるかを述べ、以て創作家と鑑賞者との態度を比較して其異同を明かにし、尙進んで鑑賞者の美意識の特徴を擧げて其大綱を説き、最後に創作活動と鑑賞作用との兩面に亘つて、心理的及び社會的に、文明藝術の職分を述べ、尙之を原始藝術の職分と比較して、一層文明藝術の特徴を明かにしやうとするのであります。

### 原始的活動と藝術の起源

總じて野蠻人は

仕事に對して、何等の規律的習慣を持つては居りません。彼等は力を放出すると云ふ意味で働き、且困憊の極に達する迄、働き抜くものであります。扱て、どうして彼等はいかう云ふ風な働きをするかと云ひますと、彼等をして其労働の努力を持続させるには、強い、而も極めて現代的な刺激が、手近に無ければならぬのであります。獨逸の經濟學者のビュッヘルは、蠻人は努力を恐れずに、規則的と

云ふ事を恐れて居ると云つて居ります。

扱自然に刺激になるの、中で、最も重なるのは、食物の缺乏、敵に對する恐怖、敵を掠奪せんとする欲望、異性を惹かんとする欲望、風雨雷電等の自然力に對する畏怖、及びさう云ふ力を制御しやうとする欲望等であります。斯様な自然刺激、斯様な要求、及本能は、魚獵・獸獵・農耕・戰爭・宗教的又は魔術的儀體・外貌の裝飾・個人的腕力及巧智等の活動で満たされたものであります。故にかう云ふ事が、即ち蠻人の主要な仕事で、彼等の色々の藝術の形式は、是等の興味と相伴つて起つたものであります。

若し人間が、何時でもかう云ふ自然の變に對して、満足に應ずる事が出来たならば、決して自分の仕事の意味や目的を眞に認める事はありますまい。この變に對して應ずると云ふ事を、心理學的の言葉で云へば、刺激に對して反應すると云ふ事になります。元來刺激と反應とは、意識的交渉無し



にも起るものですが、併し反應が往々にして不足な事、十分な事があります。吾々は刺戟に對して殘る所なく十二分に反應し得ると限つては居りません。これ故に、要求に對して眞に満足に且有効に應せんが爲めには、豫め如何なる刺戟が來るかを知り、其れに對して發作的反應をするよりも寧ろ規則的反應に身を馴らして置かねばならないのであります。斯の如く、刺戟を先見して、其れに對する反應を調整すると云ふ事は、つまり理想を作つて、其れを充實させやうとするのと同じであります。例へば、自然に飢餓の迫るのを待つて其れから食をあさる衝動的企圖に従ふよりも、先見家又は理想家は、其の壓迫を豫知して、反應を改善しやうと努めます。如何なる團體の中でも、外の人より敏捷に適切に時に應ずる此の種類の人物がある事は、よく人の知つて居る所であります。扱て此の種の人が、他人に其の言動を注意される様になれば、其人は首領なり藝術家なりになつ

たのでありまして、換言すれば、團體が模範を求める人は、其の團體の理想を具體化して居るものであります。即ち其人は「爲し能ふ人」物事を行ふ術を知つて居る人」と認められるのであります。故に一言にして云へば、原始藝術家は、身を以て模範とし、團體の活動を鼓舞し、調整した人なのであります。

## 戰爭

戰時に、出陣の舞や祝捷の踊をするのは、原始民族の風俗であります。彼等は争闘に取り懸かる前に、武器をひらめかし、恐ろしい関の聲を挙げ、精緻な步調を取つて、一緒に集まつて踊ります。實戰の場合になると、「先舞手」があつて、人を戦線に導き、且つ戦闘に於ける凡ての動作を無言で演じて見せました。此の身を以て示す模範は、戦はんとする欲望を刺戟し、且又色々な打ち方衝き方を見せるので、感情の上にも又技術の上にも、非常に有効なものであります。戦後に於ても、種族の行爲や大將の事業は、其れを眞

似た舞蹈で頌揚されたものであります。斯様云ふ舞なり踊なりを示せば、戦争の記念ともなり、婦人を驚かせもし、將來の戰に對する欲望を戰士の胸に點するので、要するにいろいろ實際の目的に適つて居るのであります。

武勇を鼓舞する刺戟として、舞蹈と共に、原始軍歌が出來て來ます。笛の音、太鼓の響、及其の種族の勇武を誇つた歌等の噪音は、種族的勇氣を鼓舞するに非常な力を持つて居りました。蠻人は「騒々しい者程正しい」のだと思ひ込んで居るらしく、彼等は高いリズム的な噪音を主とし、音楽や言葉は、何れかと云へば、寧ろ其の附屬物と成つて居ります。

野蠻人は、更に其の戰鬥力を増す爲めに、繪畫的技術をも利用いたします。例へば彼等は、種族の神や崇拜して居る動物の形を描いた軍旗を持ち出しますし、又銘々で外貌を飾つたり、武器・胄・楯などに飾装を施したりします。武人は青白い

戰用顔料で顔を彩るのみならず、眼をクワッと開き舌を垂れた、恐しい顔を楯の上に描いたりします。斯様云ふ事は、自分には勇氣を添へ、敵には威赫壓倒の趣を見せるのであります。さう云ふ隈取りや圖案は、たゞに敵に對してのみならず、時には彼等の假想の魔力に對しても、用ゐられるのであります。

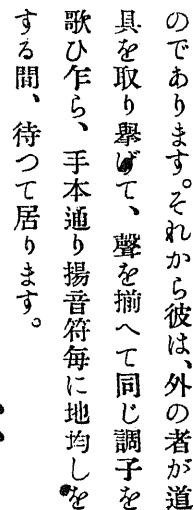
#### 狩獵及び他の産業

獵の名手の功績は、歌

謠及默劇にして傳へられるので、即ち其の獵人が獲物を係蹄にかける時の舉動や、又は殺す時の動作や、其の狩られた動物の特徵的動作などが、再現されるのであります。此の自分で動物の眞似をする云ふ事には、二つの目的があります。即ち一つには、狩獵家に禽獸の特質を呑み込ませ、又一つには、眞似した人は、その動物を手に入れることが出來ると云ふ妙な功德を信じて居つたが爲めであります。又其の動物の像は、お呪ひの爲めに、獵具の上に彫られたり、爪で描かれたりしました。

共同の仕事の必要な時、即ち重荷を持ち舉げるとき、重い物を引くとか、船を漕ぐとかの時には低級の種族間には、必ず先舞手の制度があります。其の人は、彼の戦争の時の様に、團體一同がしなければならぬ繼續行爲を、皆の爲めに先づ遣て見せ、又一同が一致して働ける様に、音頭を取ります。つまり其の運動の激勵者と整頓者なのであります。

は道具を取り上げて此の旋律を歌ひ、アクセントのある音符（揚音符）毎に、道具をドタリとおろす



異性を惹

かんとする欲望、一般の稱讃を博し、且我乍らえらさうな感じを強めたい欲望などは、古い頃から、彩色・鬚いぢみ・亂刺・及び羽毛・具殼・齒などを連ねて懸けたりして、身體を飾る習慣を作りました。獨逸の藝術起源の研究者として有名な、又數年來我國に滞在して日本美術を研究して居るグローセの説に依れば、無機物に裝飾を施す様になつたのは、斯様云ふ裝飾

—( 53 )—

依て快感を起させるの「みならず、往々其の裝飾の主が拔群の力を備へ、且特に熟練して居ると云ふ事を表はして居ります。例へば敵の頭皮の裝飾品は、勇敢な戰士たる證據となり、珍奇な鳥の羽毛を持つて居るのは、狩の上手を示し、又美事な疵跡きずあとの飾りは、其の人が非常な苦痛に堪へる剛毅な性質であると云ふ事を表はして居ります。

此の外貌の裝飾には、又他の動機も認められない事ありません。例へば黥及亂刺の圖案の中には、社會的結合を示す種族の象徴もあると云はれて居ります。併し上に舉げた二つの動機が主要なもので、畢竟眞に快感を與へる様な様子を作る事と、自分のえらさを證明する爲めなのであります。或種族には、愛の舞踊がよく行はれます。此の舞踊は、情緒を表出し、且外觀の美を示す爲めであると云はれて居ります。

### 教及魔術的儀禮

宗教的舞踊は、今

日では、以前考へて居つた程廣く行はれたのでは

無かつたと云ふ事になつて居りますが、兎に角、或種族の間には行はれたものであります。其の目的は、神又は惡魔を宥めて、其の助力好意を仰ぐのにあります。扱て原始的藝術と魔術の儀禮との關係はどうかと云ふに、これはよく證明が出来て居ります。原始的魔術の背後に潜むひそまな思想は、或人なり或物なりを自由に支配しやうと思ふ時は、其人の姿とか、其人に關係の深い物とか、其物の一部分とかを、自由にすれば良い、と云ふのであります。

そして藝術を刺戟するに與つて力のあつた魔術の遣り方は、就中上に述べた繪姿とか人形とかに關するものであります。即ちかう云ふ繪なり像なりに對して行つた事は、必ず原物自身に効力を及ぼす事が出来ると云ふ信念に基いて、魔術が行はれたのであります。無論此の信念は、極めて漠然としたものではありませんが、猶確固たる經驗、即ち畫像の靈的能力と云ふ事を、基礎として居るのであります。

歐洲人は、數世紀前までは、害を加へやうと思

ふ人の像を蠟で造り、これを火の前で溶かしたり、針を打ち込んだりして呪つたのは、丁度我國の藁人形と同じ事でありました。況や原始人民に於ては猶更の事で、畫像を用ゐる外に舞踊や演劇的所作で或物を眞似れば、其物自身を動かす事が出来ると假想して居りました。故に彼等は、冬を追ひ拂つて春を招するつもり of 所作を演ずれば、夏の來るのを早める事が出来る、又神に扮した人に、神にして貰ひ度い事をさせれば、其の望みが叶へられると思つて居たのであります。そして此の魔術の原則は、醫藥を司る人も亦用ゐたので、醫者が病人の看護を頼まれると、其の病氣の徴候を眞似たり、又病人がとりつかれて居ると想ふ惡靈の眞似をしたり致します。斯うして病を制したり、其れに打克つたりするつもりで居りました。是等の事實に依て、妖術は模倣衝動を刺戟し、且畫像舞踊等の製出を促すものであると云ふ事がよく分

かるのであります。

### 自然に對する原始的態度

古代藝術の起源

を述べるには、藝術產出の直接刺戟として、自然美の知覺を擧げるのが至當でありさうに思へませうが、併し實際は、原始人は近代人の様に無關心（第六十二頁參照）に、自然を讚美するなど云ふ事は極めて稀か、又は絶無であつたのであります。

無論野蠻人とても、自然を觀察し且それに注意するに相違なく、殊に動物の生活にはよく氣を留めはしますが、併し其の興味たるや、十中八九迄、直接に實際の目的と決して切り放す事の出来ないものであります。次の獵人の歌は、原始人の自然の愛の性質をよく現はして居ります——

カンガルーはいと疾く走れり、

されど我更に疾く走りぬ。

カンガルーは肥えたり。

われ之を喰へり。

カンガルー！カンガルー！

蠻人が自然美の鑑賞を示して居る歌は、極めて

稀であります。野蠻人の自然現象に對する興味は單に、自分に關係のある範圍に限られて居るのみならず、自然に對する概念は凡て擬人的説明であります。野蠻人はあらゆるものに自分自身の影像を被せて考へます。其の認める價值は、凡て自分もしくは社會と關聯して居ります。自然の風景を單に自然の風景として讚美する事は、個人的にも種族的にも後世に至つて發達したものであります。

#### 原始藝術に於ける暗示の力

原始藝術の大

部を構成するものは、直接の個人的模範であつて之が暗示と成つて働いて、或必要な活動を刺戟するに到るものであると云ふ事は、種々の例を擧げて前に申しました。さう云ふ場合に、藝術家若くは最初の演技者は、行爲の模型又は像を作り、團體は模倣本能に従つて其れを其の儘寫し取ります。團體が現に爲す可き事を知つて居る場合ですら、左様云ふ手本を出せば、甚しく運動の効果が強められるのであります。

一定の連續的運動中、最初にする動作は、續いて起る第二第三のよりも弱いと云ふ事は、運動家はよく知つて居りますし、實驗に依つても確であります。之をもつと理論的に云へば、遣り始めの運動は、云はゞ有機體を溫めると云ふ效があります。此の溫めると云ふ働の最も重要な所は、運動の心像を一層明白に理解させると云ふ事であります。そして此の次に來る運動は、此の心像を基礎とし、是に依て維持されるものであります。

猶例を擧げて此の關係を申しますならば、競走者が馳ける時、步調を揃へて馳ければ速さが増すと云ふ事は、殆ど一般に通じた事實であります。其他自分の前に同じ運動をして行く人を見ると、自然に勢が附く物であります。要するに或行爲の心像を明白にし、且それに勢を添へるものは、凡て其の行爲を促進するもので、直接的確な模範は此の目的に實によく適つて居るものであります。即ち模範を示される時には、何等勘考の要もなく、

刺戟の適用又は其の意味を見出すに就ての軌轢もありません。只だ見たまゝを行れば宜いのであります。斯の如き、先導者に對する没頭、打解けた暗示を容れ易い態度は、此の原始的美的鑑賞法に必要な、唯一の心的過程と云ふ事が出来ませう。

## リズムの効果

模倣されるものが、リズム

的性質のものであるか、又は遂にはリズムとなる迄規則的に間をおいて反覆され、ば、模倣的傾向に到底釣り込まれずには居られません。最初のうちの暗示は、よく拒み得た人ですら、長い間リズム的に繰り返されるのを見れば、必ず引き込まれて、其の運動を眞似する様になります。

原始的藝術に於けるリズムは、今述べたやうに、個人に對して刺戟的效果があるのみならず、共同して働く人々の動作の調子をとり、其の努力の効果を一層多く致します。例を擧げるならば、太鼓を打てば、行進に活氣が添ふと同時に、それを整頓致します。又ボートを進めるには、漕ぎ手の調

整が必要であり、綱引きが一整に引けば、力がずつと強くなります。大抵の共同の仕事をする時には、規則的なリズムが、完全な結果を得るに最も有効な手段であります。リズムに就ては、猶次講に精しくお話致しませう。

## 原始藝術の一般的職分

上述の通り、原始

藝術の一般的職分は、野蠻人の生活の實際的活動を鼓舞し、且其れを調整するに在りました。故に藝術は特殊の方向に於ける（即ち或る専門の事柄に就ての）力を高めんが爲めの考案の原則であると云ふ事が出来ます。此の特殊と云ひ専門と云ふのは、つまり藝術品の製出を促した起因に就ての問題でありまして、ビュッヘルは、藝術品と其起因との間の密接な關係に就て、次の如く述べて居ります——「冬期に於て、ブルガリアの百姓に、收穫の歌を謡つて呉れと頼めば、時節でも無いに其んな歌を謡ふ事はないと必ず答へやう」と。即ち此の百姓達は、其の歌と、歌の社會的起源とを、離して

考へる事が出来ないであります。

要するに最古の藝術は、舞踏・默劇・歌謠等に依りて直接に人に訴へ、且人身で模範を示すのを法則として居りました。其等の技術を通じ、又其の身體及所有物の裝飾を通じて、藝術家は公衆に其の個性を印象するのであります。約言すれば、往古の藝術は社會的目的を助け、同時に藝術家の勢力を或程度迄表現し且保存したのであります。

### 文明的活動と藝術の起源

原始活動と文明

活動間の第一の相異は、約言すれば分業及勞役者の専門化であります。原始社會に於ては、其の事務が同種であつた爲めに、凡ての人に對する理想が唯一つでありました。たとへば誰も彼も武士であり、狩獵者であつたので、結局腕力と巧智とが絶對の徳として稱へられたのであります。つまり文化の幼稚な時代ほど、似たり寄つたりの型の人が多いのであります。然るに社會の發達に伴つて、職業が多種多様となり、別々の職業に對する

別々の團體の盡力は、別々の階級と型との發達を促して來るやうになるのであります。そして近世の學說に依れば、此の専門化の傾向は、まだ餘程進みさうな勢があります。

野蠻人と文明人との間の第二の重要な相違は、文明人は嫌な仕事に堪へる能力がある點であります。即ち文明人は勞役の習慣を持つて居りまして、常に何等の感覺的刺戟が無くとも、活動を續ける事が出來ます。是は文明人は何等刺戟なしに遣て行かれると云ふ意味ではなく、彼等をもつと遠い刺戟を受ける事が出來るといふ意味であります。即ち將來の爲めと云ふ思想は、十分に近代人を働かせる所以でありまして、或は何年か前に云はれた言葉に勵まされる事もありますし、又自分とは丸で異つた仕事をして居る人の例に依て鼓舞される事もあります。簡單に云へば、文明人は刺戟を廣い範圍から得る事が出來、又自分の仕事とは性質の異なる物からも、時を隔てた事からも、刺戟を受



ける事が出来るのであります。

近代人の活動が、斯様に複雑を極めて居る爲めに、従つて近代藝術も亦、仕事の範圍がずつと廣くなつて居ます。少くとも理論上からは、あらゆる人の生活は、皆藝術に對して機會と材料とを與へて居ります。即ち近代藝術家は、遙に廣大な公衆、遙に多種の興味を有する公衆を控えて居ります。

此の二つの條件は、二つの相異なる結果を生じます。即ち第一に、藝術家は公衆の雜多であると云ふ事を構はずに、あらゆる人の性情に共通の問題をえらぶか、又は第二に、公衆の興味の廣さを頼んで藝術家が其の特殊の個人的經驗を述べるかであります。本講の最後の二節に於て申しますが、此の二つの傾向は、決して兩立し難いものではありません。

要するに右に述べたやうな近代的文明から生じた状態の變化によつて、やはり文明藝術家と文明の公衆との精神上にも變化がおこつて來るものと

見なければなりません。即ち文明藝術の特徴と云ふものがあらはれて來なければなりません。扱てその變化はどう云ふものであるか、これを述べる豫備として、先づ第一に藝術創作の根本問題に入つて、藝術衝動の如何なるものかを説き、つぎに美的鑑賞の意識に及んで、その主要なる特徴を述べ、最後に愈々本問題に立入つて、文明藝術の職分、及び其の原始藝術の職分との差を擧げて、文明藝術家と公衆との態度に就ての説明を試みやうと思ふのであります。

### 藝術衝動

創作衝動とは如何なるものか。

藝術家の態度と鑑賞者の態度とは、如何に類似し又如何に異なるか。この二つの問題に對する答を得る前に、まづ知つておかねばならないのは、藝術製作者とは、必ずしも大天才に限る譯では無く、誰に依らず、眞面目に何等か藝術的な事をしやうとした事のある者を、皆含んで居る事でありまゝです。これは殆んどあらゆる人を意味して居りま

す。瑞典の有名な藝術起原の研究者たるヒルンの言に、「藝術の概念を最も普遍的な意味で考へれば凡ての健全な人は、少くとも其の生涯の或時は、能力に於ては兎も角、向上心に於ては、藝術家たるものである」と云つて居ります。

是から愈々創作衝動とは如何なるものであるかと云ふ事に就て御話いたします。元來藝術家に藝術製作を促す動機は色々有りませう。例へば戀愛・競争・金錢等外的の動機も無い事はありませんまい併しさう云ふものとは別な、純然たる藝術の爲めの藝術と云ふやうな動機からも創作を致しましたやう。或は又內的の藝術衝動に依て、藝術製作が動かされる事も有るのであります。扨て此の衝動とは如何するのでありましかうか。

獨逸の大詩人にして且つ美學者たるシルレルは藝術衝動を遊戲本能の發現したものとして、其の自然な自由な性質をよく認めました。此見解は後に、英國の哲學者スペンサーが取り上げて、一層

發達させました。此の人々の意見に従へば藝術は遊戲の成熟せるもので又餘剩精力を統管する手段であると云つて居ります。

是に對する反對說中、次の二つが重立つた者であります。第一説は藝術も遊戲も共に、餘剩精力の安全瓣とも排水溝とも認める事は出来ぬ。それは斯様云ふ活動は、實際遊戲者又は藝術家が、餘分の精力を持つて居らぬ時にも行はれるからであると説くのであります。又第二説は、藝術と遊戲との動機の差、及び製出に關する相違を論據として居ります。精しく申しますならば、遊戲衝動は遊戲の實際過程が完了する時に、満足されますが藝術衝動の方は、單に過程を要求するのみならず、製出の行動が完了した後までも永續する或特殊の産物をも要求するものであります。瑞典のヒルンは、此點をよく言ひ當てゝ居ります。

外にも、藝術衝動の性質に關する學說があります。即ち、藝術は模倣衝動の發露であるとする希臘

の哲學者アリストテレス以來の説もあり、又他を悦ばせて以て人を惹んとする欲望に出て居ると云ふ米國の美學者マーシャルの考もあり、又自我表示の欲望に基くものであると云ふ米國の心理學者ボールドウインの思想もあります。是等の説は、それ／＼眞理を含んで居るには相異ありませんが、併し最も卓出して居るのは、藝術衝動は情緒を客觀化せんとする欲望であると云ふヒルンの説明であります。

此の説で云ふと、藝術衝動は其人自身の情緒的經驗を永存せしめんとする欲望であると云ふ事が出來ます。たとへば我々は特に意味のある瞬間、奇異な哀しみ、興趣に富む悦びなどを經驗すれば其れと記し留めて置き度くなるのが普通であります。扱物を記すに唯一の確な方法は何かと云ひますと、自分自身を、永久的な若くは再生し得べき印象を留める様な（殊に他人に共に印象を留める様な）形にはめ込む事であります。要言すれば快感を

與へるやうな形式は、左様云ふ不死不朽を得るに最良の方法であります。ヒルンが「最も效力強き藝術品とは、或一人が其作品によつて動かされて居ると同じ情緒的狀態を、段々多くの同感者に傳へ得るものと云ふのである」と説いて居るのは、よく此の點と云ひ現はしたものであります。尙この事實は、日常の經驗に徴しても明かであります。たとへば我々が自分の經驗を人に傳へる時にどうするかと云ふに、他人が聞いても、自身が後でそれを經驗して見ても、要するに其の經驗の瞬間が再生する位に、又之を味つて見て尤もと思はれる際まで、シッカリとよく合つた仕方では遣り度いと思ひます。更に進んでは、其れが他人の感情及行爲に迄影響を及ぼす様な方法で、遣り度いと思ひます。斯の如く我々は、自分の事柄、自分自身の情緒を、重大なものとして確定したのであります。これが即ち情緒の客觀化と云ふ事であります。

## 創作と鑑賞

以上を以て創作衝動に關する

大體の話を了りましたから、次に藝術家の態度と鑑賞者の態度との異同に就て、申上げて見たいと思ひます。

或意味に於ては、藝術家の意識は、單に藝術家の作物を鑑賞するに過ぎぬ鑑賞者の意識より廣いと云ふ事が出來ます。如何となれば、作家は自分自身の思想を具體化するに先立ちて、それを味ふ態度を先づ持つて居る筈で、即ち作家は先づ其の思想を暗示した四圍の或事物に對して、美的な心のときめきを感じる筈であります。併し又他の意味に於ては、鑑賞者の態度の方が廣いとも云ふ事が出來ます。其れは單なる鑑賞者は受動的即ち受け身であつて、作家のやうに能動的製出から來る無感又は鈍感の作用、即ち馴れて順應すると云ふ弊を蒙らず、且藝術品の批評をするに都合の好い印象を廣く集める餘裕があるからであります。

無論右に舉げた創作と鑑賞との二つの態度は、理論的に分けたものでありますから、實際上では

此の二つは交互に又入り交つて相働いて居ます。即ち製出者は、其の印象の範圍が廣く且多樣であるだけ勝れた藝術家であり、又製作を試みた鑑賞者はそれが爲めに美の要素に對する觀察が、非常に鋭くなつて居ります。而も猶一方は受け身であり、又一方は自分の思想を人にも分けやうと云ふので勢ひ發表的であります。

次の三項に於ては藝術品を鑑賞するに當つての觀察者の見地に就て、述べて見たいと思ひます。通常鑑賞者の美意識は、第一に感情の方面より見て、無關心であり、第二に知的作用の方面より見て、觀照的印ち直觀的であり、第三に社會的方面より見て客觀的であると言はれて居ります。以下項を追うて説明致します。

### 美意識は無關心なり

美意識の特徴を、第一に其感情の方面から見れば、無關心と云ふ事になります。元來人には物に對する色々な興味の感じ方があります。例へば林檎ならば、飢えて居る

者には、當然食べる爲めの物であり、腕白な兒には、投げたり受けたりするためのボールであり、又美術の學生には、寫生のモデルとも見えませう。此の場合には、各々其の林檎を、自分自身の目的を達する手段に用ゐやうとして居ります。所がこゝに第四の人が居て、其人は、林檎を單に林檎として興味を感じて居る許りで、故ら私用に供するつもりではないと致しませう。此人は取りも直さず美的態度の一徴候を備へて居るのであります。次に林檎の代りに一枚の繪で考へて見ませう。單に一枚の紙としては、火を起す爲めに燃やす事も出来る、物を書く事も出来る、窓の隙を塞ぐ事も出来ます。併しさういふことをすれば、誰でも直ぐその繪は酷いことをされた、不相應な目的に使はれて、ほんの道具とされたに過ぎぬと感じます。こゝに唯一つ至當と認められるのは、繪をそれ自身一の目的と認めると云ふ、即ち無關心(利害の關係を無くした)の態度であります。

無關心なる興味とは、直接の私の目的を飽く迄も對象其物の暗示する目的に従屬せしめんとし、又は少くとも、もつと遠大な私の目的に隸從せしめんとするものであります。言はゞ公平なる友情とも比すべき此の藝術品に對する感情は、「主體が對象に没入する事」として、説かれて居るのであります、つまり欲望を離れ意志を没した狀態として感ぜられ、從て自我を服從せしめる事、若くは純然たる實利又は一身的興味を抛つ事に當りますから、此の狀態を沒意志とも、脱實とも、離我とも、或は實在感(實感)の遊離とも稱へます。要するに斯う云ふ名は、皆美意識を消極的に見て付けたものであります。

次に此の無關心の感情狀態を、積極的に見てどう云ふ名が付いて居うかと云ふと、慾望・意志・激情・情緒等を免れた斯う感情狀態は、種々の學者によつて、輕快の感とも、自由解放又は遊離の感とも、靜觀性とも、假感(假象感情)とも、移感(感

情移入)とも、對象的感情とも呼ばれて居ります。輕快・自由・靜觀は、共に意欲や情緒の動亂を免かれた状態を指して云つたものであります。假感と云ふ語は、獨逸の哲學者のハルトマンが創め、遊戲論の著者として有名な獨逸の美學者グロースがやはり今も用ゐて居る用語でありまして、實在感の遊離と云ふ事を、積極的に見て付けたものであります。現今獨逸の一流の美學者たるリップスの創めた移感又は感情移入と云ふ用語は、やはり現今リップスと並び稱せられて居るフォルケルトの創めた對象的感情と、同じ意味のものでありまして、自分の感情を投出して對象にさう云ふ感情が備はつて居ると見るから對象的感情であり、又自分の感情を對象に移し入れて對象に自分が同情して之と同じ心持になるから感情移入であります。何れにしても感情である以上は、やはり自分自身の感情に違ひないのでありますけれども、之を自分の感じとは思はずに、對象が有する感情として鑑賞し

て居るのであります。たとへば二拍子のリズムは堅實であり、三拍子のリズムは輕快であるやうにリズム其者にさう云ふ感じが備つて居るとして之を味つたり、垂直線には堅固・確實の感が備はり、斜線には滑動的・落下的の意が附着して居る様に感ぜられたりします。又マリヤの泣いて居る繪を見れば、やはり其作品中の人物の有する悲哀の感情を鑑賞者が味ふと云ふ風になるのであります。

#### 美意識は觀照的なり

美意識の特徴を、第

二に其知的・認識的の方面から見れば、觀照的(又は直觀的)と云ふ事であります。元來美に對する我々の嗜好は衝動的であります。もつと精しく申せば、對象が吾々の官能に訴へる處に、主として美意識上の根據があるので、其他には根據を持たず、又持つに及ばぬのであります。もつと碎いて云へば、活きくした、ありくとした、具體的の官能的の經驗を必要とするのでありまして、これが即ち直觀的又は觀照的と云ふ事で、別言すれば直接的で

あつて、推論的でないといふ事があります。つまり其の嗜好には理屈から割り出した結論とは違つて前提がないのであつて丁度眞理の直覺の様なものであります。故に徳義上の是認とは全く別で、決して法規を遵奉した様な感じはせず、たい良心の推察と同然に自然的直覺的なのであります。換言すれば、美的鑑賞は、和解せられ又は推論せられたる價值では無くて、直接的な價值の感じであります。

以上の理由から見て、第一に感覺は、藝術に於ては常に大切なもので、此の官能に訴へる事に依つて、藝術は推理的でなくして、直接な本能的評價に訴へるものであると云ふ事を忘れてはなりません。故に繪畫にせよ、建築にせよ、彫刻にせよ、又音樂にせよ、舞踊にせよ、演劇にせよ、要するに之を味ふ時の我々の經驗は、悉く感覺に訴へますから、従つ具體的觀照的でないものはありません。

併し此の觀照的であると云ふ事を、餘り極端に取つてはいけません。美しい物には、決して何等の

聯想も知的暗示も無いと云ふ譯ではなく、たゞさう云ふものは、美意識の隨一の根據でもなく原因でも無いと云ふ事を、強めて云つたのであります。

故に第二の大切な條件として奉げなければならぬのは、心像であります。第二講第十頁以下、殊に第二十頁に於て、精しく述べましたやうに、心像は感覺の再現したものでありますが、或は人により又は時と場合によつては、實際の感覺と違はない程明瞭に現はれて來るものであります。感覺に亞いで、觀照的具體的の價值を有して居るものであります。文學上の作品を味ふ時の經驗は、全く此の心像を中心として成立して居るものである事は、改めて申上げるまでもない事と思ひます。勿論作品に依つては、或は人生問題、或は婦人問題と云ふやうに、理論的・抽象的な或る思想なり主義なりを、述べるには相違ありませんけれども、文藝上の作品に於ては、決して科學者や哲學者のやうに、理論を理論として述べるのではなく、た

とへばフアストなりノヲなりと云ふ或る特殊の具體的の人物を點出して來て、かう云ふ觀照的の手段即ち心像と云ふ運般器に依つて、其思想を讀者に味はせやうとするのであります。

觀照的と云ふ事に付け加へて述べて置きたい事は、美意識に於ける運動的傾向と云ふ事であります。第三講で情緒の御話をした時に、總ての意識は運動的傾向を持て居ると申しましたが、美的鑑賞の高潮に達した時には、殊に其實が顯著でありまして、運動感覺と有機感覺が活動するのであります。此の點を力説して居るのは、英國の女流美學者リーと、獨逸の美學者グロースであります。此運動的狀態に就ては、後に各個の藝術を述べる時に、多く御話しやうと思ひます。

### 美的判斷は客觀的且普遍的なり

美意識の

特徴を、第三に社會的方面から見れば、客觀的及び普遍的と云ふ事であります。元來客觀的である物は、鑑賞者が何人であるに拘らず、鑑賞者と獨

立して存在せねばならぬ筈、即ち甲に對しても乙に對しても同様の結果を生すべき筈であります。別言すれば、鑑賞者は移りも變りもしませうが、客觀的事物は其儘でなければなりません。

事物に對する鑑賞者の信念は、其物に對する他人の信念即ち社會的的信念に、據る所が深大であります。もつと精しく云へば、もし或人が或物を觀たと云つても、自分同様それを觀る機會のある人が、皆一樣に其様なものは其處には無かつたと云へば、當人は自分の感覺を疑ひ始めます。要するに實在性とは、究極は社會的問題でありまして客觀的方向に於ける人の信念は、輿論と同化して了ふものであります。それ故若し一つの物が、多數の人に存在すると思はれるとすれば、唯一一人の人に信ぜらるゝよりも、ずつと實在性の度が増して居る譯であります。

此の原則を美的對象に應用しますと、「多數に美しく見えるものは美しいものである」といふ事が



出來ます。言ひ換へれば、或物が社會一般に多く認められ、それ丈で、其物は存在して居るとも、其物は美しいものであるとも云へるのであります。併し果して幾人の人が、此の後楯<sup>うしろだて</sup>を成すに必要であるかは正確に申せません。猶亦多數の方が誤つて居つて、少數の方が正しい事も無いには限りません。しかし少數と云ふ事自身が、矢張社會的團體なのでありますから、やはり客觀的及一般的のものを云ふ時には、必ず社會的關係がはいつて來るのであります。

要するに美意識は客觀的且普遍であると云ひますのは、美しい物を鑑賞する時、我々は現に社會的判斷たり、又は他日社會的判斷たるべきものと一致して居り、斯くして直接種族の生活を分有して居ると云ふ事であります。そして又他の一面から云へば、美感以外の快樂例へば食物の如きは、只だ一人でしか消耗する事が出來ないのに、美しい物は同時に大きな團體が分有する事も出來

ると云ふ意味に於ても、普遍적입니다。

客觀的と云ふ事に付け加へて、申上げて置きたいのは、美意識のもう一つの特徴として、非常に暗示を受け易いと云ふ事であります。極めて愛す可き物の前に在ては、人は子供のやうになつて、其の與へる如何なる暗示をも受け容れるものであります。併しこれは感情の客觀性と其の無關心と云ふ性質の一面に過ぎないのでありませう。兎に角自製の根源が一時移動すると云ふ事を意味して居るので、吾々は全く外物に左右されるのであります。

### 文明藝術の職分

藝術には元來どう云ふ役目があるかと云ふ事を、第一に作家の立場から云つて見れば、藝術の直接の効果は、自分を壓迫して居る情緒騷を、少くとも一時弛緩(又は卸荷)させると云ふ點にあります。たとへば藝術家が色彩なり、大理石なり、言語なりに自分自身を移し、自分をこれに打ち込んでしまへば、彼は責任なり情

緒なりを、そう云ふ觸れ得べき客觀的事物に移したのであります。それ故藝術家は、その情的經驗を取戻し度いと思ふ時には、自分の製作品に依て取戻すことが出来ますから、彼はその情緒を忘れても差支はありません。

第二の役目即ち鑑賞者の立場から云ひますと、藝術は新しい現象・新しい心像・新しい感情・新しい思想を鑑賞者に暗示するものであります。従つて鑑賞者が藝術品に没頭すると云ふ事は、其作品が或る新しい要素を紹介するからには、或方向に於て其人の生活を變化させる筈であります。別言すれば藝術品は鑑賞者に代理的經驗を與へるものであります。

第三の役目即ち社會的の立場から申しますならば、第一の役目で述べたやうな情緒の再現は、勿論作家にのみ限られて居るものではありません。

斯の如き作家の個性なり經驗なりは、假令其作家が直接に公衆と接觸しないにしても、藝術品其物

に留まつて居て、これに依つて公衆に傳達されるのであります。従て藝術家と公衆との間には、社會的協力が行はれます。たとへば、一方に於て藝術家は、物を見て感じて、人の情緒を鼓舞するに巧みであり、又他の一方に於ては、公衆の或者は、その情緒を刺戟するに足るものを捉へ、且その結果を利用する力が、藝術家より勝れて居ります。猶例を擧げて申しますならば、士氣振興の呼吸を最もよく吞み込んで居つて、兵士を鼓舞する爲めに歌を作る人は、必ずしも兵を率ゐて連戦連勝を博する人ではありません。換言すれば、藝術家は必要な感情を刺戟しますけれども、其の感情を利用して戰に勝つには、藝術其外の軍略戰術が要ります。

もう一つの社會的の役目を申しますれば、藝術はたゞに感情を刺戟するのみならず、新活動をも刺戟するものでありまして、換言すれば藝術には慰樂的、安息的の職分があります。日常の經驗の示す如く、仕事を換へる位利き自の多い休息はあり

ません。此の點から見て藝術品は、新しい計畫又は新しい暗示を以て心を充たし、以て外の活動から休息させるものであります。

### 原始藝術と近代藝術との職分の差

原始藝術に於ては、統率者の情緒的立場と、技術的立場とが、別々ではありませんでした。たとへば勇氣を鼓舞した舞踊は、同時に攻守の運動を示したもので、情想を起させる歌は、又、戦鬪の法則を枚舉し、或は入用な武器を數へ舉げました。次の豪洲の軍歌であります――

矛をもて額を突け、

矛をもて胸を突け、

矛をもて肝臓を突け、

矛をもて心臓を突け、

矛をもて腰を突け、

矛をもて肩を突け、

## 二

プアールの楯、棍棒と矛と、

持ち來れ、ベアールの投げ杖を、

プアールの幅ひろき投げ木を。  
帶を、房を、プーダンの膝掛を。

起て！ 踏み出でよ！

眞直なる巨鳥の矛もて

あやまたすれらひ定めよ。

これを佛國の國歌の「マルセーユ」又は蘇國の「バンノックバーン」と比べて覽るのも、極めて興味のある事でありましやう――

汝自由の干等よ、目覺めて光榮に向へ

聞け！聞け！千萬のもの汝に起てと呼ぶな

いましてが子等、妻等、髪白き翁、

其の涙を見よ、其の叫びを聞け！

憎むべき虐主、傭兵と兇徒をつれて、

禍をはごくむ暴主に、

國內踏みにぢられて已みなんや

平和と自由は、重傷負ひ仆るゝひまに。

かつてはワレースと共に傷けるスコト人、  
かつてはブルースを將と仰ぎしスコト人、  
いで、來れ汝が血潮の床に、

さらすば勝利へ……

原始時代の歌の單純な點は措いても、此の二種

の歌の非常な差異は、第一に原始歌謠の客觀的、技術的性質と、近代の歌の主觀的、情緒的性質との間の對照であります。今掲げた歌の例の示す如く、未開時代の歌謠作者の數へ上げた細項は、實戰の時の運動を、一々心に留めさせる様に計つてあり、近代の歌は、たとへば子供等の涙とか叫びと云ふやうに、戰士の感情をたかぶらせて、その決心を固める様な内容を持つて居ります。第二の相異は自由・光榮・勝利の如き、一般的概念は近代の歌謠に特發のものでありまして、専門的教練に依て刺戟を利用する役目は近代科學に譲つて、近代藝術は、感情的且一般刺戟を起す事を、目的として居ると云へるのであります。此の點から見れば、獨逸の哲學者のヘーゲルの言の如く、藝術は本來普遍的なものを表現するものであります。

要するに文明藝術の職分は感情生活を敏活ならしめ、且それを擴大し一般化する點に在ります。而して此の職分も、究極は吾々の實際的活動に影響を及ぼすものでありますけれども、其の實際的結果との遠隔即ち道程の長さが、文明藝術と原始

藝術との本來の相異で、この道程は原始藝術は近く、文州藝術は遠いのであります。

一般的と云ふ事に就いて、もう少し述べて見ましょう。藝術の影響が一般的性質を帯びて來るに従つて、作品は個々の場合と關係が薄くなつて參ります。此の一般的刺戟とは如何なるものかに就ては、次の例に依て御話致しませう。例へば戰勝の記念像が大通りの角の廣場に立つて居るとしませう。通る人毎に、其の像を仰いでは、感情の高まるのを覺えますが、併しその感奮の結果は、人毎に違つて居ります。軍人は更によく戰はん事を思ひ、音樂家は凱旋の曲を作らうと思ひ、學者は學問上の問題を解決せんとし、樵夫はもつと木を切らうと思ひ立つと云つた風であります。其の記念像が起させる斯様云ふ行爲は、その究極の一部ではありますが、それが斯様までも細かく分かれ且最初から見抜かれないからには、寧ろ一般的に云ひ方をして、「其の彫像は勇敢にして勝利的な仕事をさせる様に刺戟する」と云つておくのが宜いと思ひます。

## 二月例會

二月八日(土曜日)午後二時

東京女子高等師範學校附屬幼稚園にて講演

### 『國民祭』

東京女子高等師範學校  
教授 文學士

垣内松三君

四季その折々家々に祝はるゝゆかしき國民祭の數々に就ての趣味深きお話。之れは子供の教育の上に大切な關係のあることであります。

會員外にても幼兒教育に興味を有せらるゝ方々の廣く  
御來會を希望致候

二月

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

# 兒 童 研 究

社會の改善も、人類の向上も、文明の進歩も、國家の發展も、詮じつむれば、ただ善良の兒童を得るにありと言ふこととなる。兒童を愛する國は興り、兒童を顧みざる國は亡ぶ、これは千古萬古變ることなき箴言である。兒童の研究は、ひとり教育家や、醫家に一任して置くべきものではない。世の父兄自ら研究すべき筈のものである。兒童の研究は即ち我を愛し、家を愛し、國を愛し、人類を愛することになる。兒童のために最善を謀らざる家庭は、決して幸福を望むことは出來ぬ。我儕は何人も兒童の研究に興味を持たれんことを切に希望してやまないのである。

○會費半箇年分金九十錢 同一箇年分一圓八十錢○兒童研究は毎月一回二十五日發行○會員には無代頒布○見本金十五錢

東京市本郷區千駄木町五十番地

日 本 兒 童 學 會